

～時間外選定療養費のご負担について～

医事課 長峯 一昭



日頃より当院の診療・運営にご協力をいただきありがとうございます。
当院は二次救急医療機関として、入院を必要とするような重症の患者さんや、緊急の処置・対応が必要とされるような患者さんを対象に24時間体制で受け入れることを使命の一つとしております。

しかし、時間外に受診される患者さんの中には、緊急の受診の必要がないと判断される方や、患者さん個人の生活時間帯に合わせた受診など、コンビニ感覚的な利用が少なからずあり、本来の目的である重症患者さんへの迅速な対応に支障をきたしております。そこで、この状態を改善して本来の救急医療を遂行するために、平成26年10月1日(水)より、夜間・休日の緊急性を要しない(軽症)受診につきましては「時間外選定療養費」として5,400円(税込)を患者さんにご負担していただくこととなりました。

地域の救急医療を安全・十分に提供するため、厚生労働省から認められている制度です。救急医療体制の維持および「時間外選定療養費」のご負担について、ご理解とご協力をお願いいたします。

開始日 平成26年10月1日(水)

金額 5,400円(税込み)

対象となる時間帯

平日	18:00～翌日8:00
土曜日	14:00～24:00
日祝日 年未年始	第3土曜日 創立記念日(6/10) 終日



外来受診のご案内

- 開扉時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30～11:00 再診 8:30～11:30
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜/創立記念日(6月10日)
年未年始(12月29日～1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時～16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

お見舞いについて

- 【面会時間】
- 平日 15:00～19:00
 - 土・日・祝日 11:00～19:00
(2階西病棟13:00～19:00)
- 防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。
時間内での面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。
状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

編集後記

消化器内科の吉松です。最近暑さも和らいで過ごしやすい季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?私は、学生時代、軟式テニスをしていました。その影響もあってか、先日の全米オープンテニスの錦織選手の活躍には大興奮しました。日本人であそこまでの活躍、不可能だと思っていたので大変素晴らしいことであると思いました。それに比べて、私自身もテニスをしたい気持ちもありますが、なかなか実行できておりません。せっかくスポーツの秋なのに…。やはり、食欲の秋のほうに興味があるからでしょうか…。院内ではなるべく階段を使うように頑張ります。(吉松)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2014年10月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



SAKURAdayori

東邦大学医療センター 佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

「がんと災害」に対し、 我々が備えること

管理担当副院長 岡住 慎一



国民の2人に1人が罹患する「がん」は、国民病として、日本人としての人生を送る上で必要不可欠な対応領域となりました。自分が健康でも、家族の誰かは罹患する状況が一般化していく中で、現代のがん医療は「診断と治療」という従来の観点から、「緩和・支持療法」「介護」を包括した地域連携の課題として捉える理解が必要となっています。その中で地域中核病院には、「地域がん拠点病院」として、これらの一連の流れを統括し、住民が安心して「がん」に対応できる環境を整える責任が生じています。東邦大学佐倉病院では、平成3年の開院より各診療科の増員、診療分野の充実と職員に対する院内教育・研究カンファレンスを継続し、より高次の機能を発揮する病院を目指してまいりました。2008年の増床、2009年の化学療法室開設、2010年の病院機能評価認定、2011年の千葉県がん診療協力病院認定、2012年の地域連携フォーラム開始、2014年の放射線治療装置導入と地域中核病院としてのがん診療機能の獲得を進め、本年度、「地域がん診療拠点病院」申請を準備しています。

また、災害についても、昨年発表された有識者会議報告にて、今後30年以内の直下型M7級地震の可能性が70%と予想される中、当地域における当院の重要性が

認識されます。2008年に救急病床10床開設とともに新救急医療体制を開始し、救急患者の応需は約1.5倍となっています。また、同年、地域消防・警察・行政との「救急と救命の連鎖研究会」を発足して連携を強化し、継続しております。地域消防とは、救急救命士研修、印旛地域メディカルコントロール、院内救急蘇生処置研修等において常時協力体制をとっており、常時、「顔の見える連携」がとれるように準備しています。院内では、災害時の入院患者、外来搬送患者に対する職員定期訓練をシミュレーション方式で施行し、安全を図っています。さらに、「災害拠点病院」の申請により、備品等の拡充に努める方向であります。

大学病院は、診療、教育、研究が根幹であります。当院においては、地域中核病院としての医療連携において、「がん」と「災害」に対する役割を果たすことが今後さらに求められると認識しております。今後も、市民公開講座における情報発信、医療連携フォーラム、救急と救命の連鎖研究会、地域医師会との連携を続け、がん診療、災害医療への体制を整えていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「頭痛の診断と治療～頭痛はこわくないパート2」市民公開講座が行われました

神経内科 榊原 隆次



榊原隆次准教授

去る7月26日(土)、病院東棟7階の講義室にて、市民公開講座「地域で考えるケアと治療「頭痛の診断と治療～頭痛はこわくない パート2」」が開催されました。この日は気温30度を超える猛暑にもかかわらず、広く市民の方々にお出で頂き、会場は盛況でした。頭痛は、生涯で3人に1人以上が経験しているといわれます。その大多数は良性頭痛であり、適切な治療で改善されるものです。一方、頭痛の中には急を要するものもあります。今回、治療とケアに関わるスタッフそれぞれから、話をさせていただきました。

榊原医師(神経内科)の司会で、最初に、露崎医師(神経内科)より「頭痛」という病気の概要について説明がありました。頭痛がその特徴によっていくつかに分類されますが、緊張性頭痛とよばれるものが最も多く、ストレスと局所の



宮崎親男助教

こりの2つの原因があります。2番目に多いのが、よく耳にする片頭痛とよばれるもので、脳血管やセロトニンが原因となるそうです。これらに対しては、特効薬があることも説明がありました。次に、神経内科の急を要する病気(髄膜炎など)について、岸医師(神経内科)より、脳神経外科の急を要す

る病気(クモ膜下出血、脳腫瘍、低髄液圧症候群など)について、宮崎医師(脳神経外科)より、それぞれお話がありました。休憩をはさみ、メンタルヘルス科の頭痛(神経症、うつ病など)について砂川医師(メンタルヘルス科)より、小児科の頭痛(良性頭痛、ストレス評価表など)について館野医師(小児科教授)よりお話があり、最後に、ご家庭での頭痛薬の注意点と乱用防止について、土井薬剤師(薬剤部)からお話がありました。質疑応答を経て、盛会裏に終了いたしました。

参加者の方々からアンケートを頂戴しており、その結果と頭痛の解説を神経内科のホームページ(<http://www.lab.toho-u.ac.jp/med/sakura/neurology/>)に掲載してあります。どうぞご覧下さい。

次回の神経グループ担当市民公開講座は、11月29日で、内容は「認知症」についてです。これも、最近テレビ・新聞で広く取り上げられる内容で、興味深い方も多いのではないのでしょうか。皆様のご参加をお待ちしております。



2014-2015年 市民公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
10月25日(土)	〈放射線治療ってどんなもの?〉 「患者さんとのかわり方」「放射線治療の基礎」「実際の放射線治療」	看護部・中央放射線部・放射線科
11月29日(土)	〈地域で考えるケアと治療〉 「認知症と共に歩む～診断と治療」	外神経内科・メンタルヘルスクリニック・ 脳神経外科・薬剤部・看護部・ リハビリテーション部・臨床心理士・ メディカルソーシャルワーカー
12月13日(土)	「冬の感染症対策」	感染対策室・他
1月24日(土)	〈加齢にともなう目の病気〉 「白内障」「緑内障」「加齢黄斑変性」	眼科
2月28日(土)	「最新の心臓血管治療」	心臓血管外科

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

「周術期口腔ケア外来」の紹介～お口の管理が全身に影響!?～

歯科医師 大島 仁(東京歯科大学千葉病院)

歯科口腔外科「周術期口腔ケア外来」が7月24日から開設されました。周術期(しゅうじゅつき)とは入院、麻酔、手術、回復といった患者さんの術中だけでなく入院前・退院後の期間を含めた一連の治療期間のことをいいます。また口腔(こうくう)ケアとは口腔内の評価と指導、口腔の病気予防、健康の保持増進、リハビリテーションなどを行うことによりQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上をめざすものです。口腔は食べる、話す、呼吸をするなど全身の健康に関わる様々な役割(機能)を担っている重要な臓器です。また口腔内には約100億個の細菌がいるといわれており、これらの細菌により口腔内(虫歯、歯周病、歯性感染など)や全身(感染性心内膜炎、敗血症、誤嚥性肺炎など)に悪影響を及ぼすことはよく知られています。従って普段からお口の中をきれいに管理することが大切となります。口腔管理には毎日自分で行う歯みがき、うがい、舌などをきれいにする管理と定期的な専門家による口腔内衛生状態のチェックと指導、歯垢・歯石の除去などの管理があります。周術期口腔ケア外来ではがん治療(手術療法、化学療法、放射線療法)を受

けられる患者さんの手術前(治療前)、術中(治療中)、術後(治療後)までの口腔管理・ケアを患者さんやご家族と専門家が共同してのチーム医療を行います。このような口腔管理・ケアを行うことで、がんの手術を受けられる患者さんでは術後の肺炎の予防、手術部位の感染予防、口腔疾患の予防、治療期間中に問題となる歯および粘膜疾患の発見などの効果があります。また化学療法や放射線療法でおこる口内炎、歯が原因の感染、口腔乾燥などからお口からの食べ物や水分を十分に摂ることができなくなり体力が急速に低下して、がん治療に支障をきたすことがあります。こうしたお口のトラブルを未然に防ぎ、症状を軽くするためには、がん治療開始前からの口腔管理・ケアが重要となりますので、歯科受診をすることをお勧めします。(口腔ケア外来は、各診療科より院内での紹介となりますので、受診科担当医にご相談下さい。)



紹介患者事前診療予約制が利用しやすくなります—患者さんご自身での予約が可能に—

医療連携・患者支援センター 涌井 芳樹

開院以来、当院では初診患者さんの事前診療予約を行っていませんでしたが、診療までの待ち時間短縮と診療の質の向上のために、2012年1月より「紹介患者事前診療予約制」を導入しております。

初めて当院を受診される際に、かかりつけ医からの紹介状や事前予約が無い場合、受付や診察までかなりの時間お待たせすることがございますが、紹介患者事前診療予約を取得し来院された患者さんからは、病院滞在時間が短くなったと大変ご好評をいただいております。

一方では、利用方法が、かかりつけ医からのお電話でのみ予約取得が可能というものであったため、かかりつけ医の



先生から「電話をしたが受付時間外で予約が取れない」というご意見も頂戴しておりました。

そこで、制度の改善を目的に、

2014年6月より試験的に一部の診療科のみ、紹介元医療機関からのお電話でなく、紹介状をお持ちの患者さんご自身が当院にお電話していただくことにより、紹介患者事前診療予約制をご利用できるようになりました。今後は、さらなる利便性向上のため、全診療科で対応できるよう、整備をすすめてまいります。

紹介患者事前診療予約制の利用をご希望の際には、かかりつけ医にご相談くださいますよう、お願い申し上げます。

かかりつけ医とは…

患者さんやご家族の病気のことについて、広く継続的にみてくれるお医者さんのことです。検診や予防接種などの相談にも気軽に応じてくれますし、ご家族とともにかかりつけであれば、家族の状況や生活習慣なども把握しています。病状により入院や精密検査が必要になった場合には、東邦大学医療センター佐倉病院だけでなく、適切な病院を紹介してくれます。かかりつけ医を持つことで、効率よく医療を受けることが可能になります。